



いずみこども園  
ホームページ  
QRコード

令和7年 9月 1日  
千代田区立いずみこども園  
園長 穴原江美

## 【教育目標】 元気な子ども やさしい子ども ☆考える子ども

### 地域の文化に触れる

園長 穴原 江美

今年の夏も、毎日暑い日が続きました。夏の保育では、毎日のように発令される熱中症警戒アラートに留意しながら、少しでも暑さを和らげようと水遊びや寒天遊びなどで涼を感じたり、涼しい体育館を活用し思い切り体を動かして遊んだりして、元気に夏を過ごしました。

ところで皆さんは、『〇〇の夏』という去何を思い浮かべますか？旅行、花火、盆踊り、海、山、かき氷など、他にもいろいろあるでしょう。

保育・教育関係者の間では、『研修の夏』という言葉をよく使います。夏は、様々な研究会の全国大会が地方で行われたり、実技研修会やサマーセミナーが各地で開催されたりします。本園の先生たちも、様々な研修会に参加して自己研鑽を積み、研修での学びを保育・教育に生かしています。

私自身は、『全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会東京大会』『全国幼児教育研究大会滋賀大会』『全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会岩手大会』という3つの全国大会に参加しました。普段はお会いできない全国の先生方が集まる機会ですので、様々な地域の様子を聞いたり、全国の先生方の実践に触れたりすることは、夏にしかできない貴重な学びの機会となっています。

それとともに楽しみなのが、その地域の文化に触れることです。ゆっくり観光する時間はないので、地元の名物グルメ（特産物やソウルフード）を食することが楽しみの一つです。

都内にいても、日本全国の食材や料理を食べることはできますが、地元で食べるとやはり美味しさが違います。食が、その土地の気候や風土に合わせた文化であることを実感します。

PTA全国大会岩手大会では【福田パン】に出会いました。ふわふわの大きなコッペパンにバターを塗り、何種類ものクリームや具の中から、食べたいものを選んではさむ盛岡のソウルフードです。メディアでも紹介されているので、ご存知の方もいるかもしれません。

大会の記念講演では、福田パン代表取締役社長 福田 潔氏のお話を伺うことができました。福田パンは今から77年前、初代社長が食べるものに苦勞していた学生たちのために、安くておなか一杯になるパンを作ろうと創業したそうで、その思いは今も受け継がれているとのこと。美味しいのはもちろん、ソウルフードにはこういう物語があるのも魅力の一つです。

そして、「バターは手塗りにこだわり、対面販売、現金精算を続けているのは、作り手とお客様との対話を大事にしているから」と、お話しされていました。お客様を第一に考え、対話を大切にする姿勢は、保育・教育にもつながることだと思いながら、福田パンを美味しくいただきました。

さて、夏の後半には、各町会で子供縁日や納涼大会が開催され、いずみこども園の子どもたちや保護者の方も、たくさん参加していました。これも神田地域の夏の文化ですね。

本日より、幼児部短時間保育は2学期が始まります。夏の間、ご家庭で過ごしていた子どもたちも登園してきて賑やかになります。まだまだ暑い日が続きそうですが、健康面に留意し、みんなで元気に過ごしていきたいと思えます。

